

# 下越森林管理署の概要

【令和7年度版】



## 菅名岳（新潟県五泉市）

菅名岳（標高 909.2m）は阿賀野川と早出川に挟まれた越後平野の東側に隆起する山塊で、鳴沢峰、大蔵山と頂稜を連ねており、新潟市内からも山頂付近を眺望することができます。

登山道は、丸山尾根、五葉尾根、阿賀野川畔の咲花温泉に近い鳴沢からの3コースがあり、いずれもよく整備され、低山ながら美しいブナ林を見ることができる手頃な山として、新潟百名山にも選ばれています。また、山域には古生層の粘板岩や石灰岩、火成岩の斑状花崗岩、変成岩のホルンフェルスなどが混在し、地質や岩石に興味を持つ人には楽しい山です。



林野庁 関東森林管理局 下越森林管理署

# 1 下越森林管理署の国有林

当署は、国有林（80,663ha）と官行造林（1,595ha）を管理しています。

(ha, %)

市町村名	区域面積 (ha)	森林面積 (林野率)	民有林等 (ha)	国有林等面積 (国有林率)		
				国有林野	官行造林	合計
新発田市	53,311	33,836 (63)	11,979	21,666	43	21,709 (64)
五泉市	35,191	25,124 (71)	13,771	11,227	127	11,354 (45)
阿賀野市	19,274	7,255 (38)	3,893	3,238	-	3,238 (45)
胎内市	26,489	17,460 (66)	5,119	12,341	-	12,341 (71)
阿賀町	95,289	89,327 (94)	57,306	31,191	654	31,845 (36)
佐渡市	85,568	61,496 (72)	59,711	1,000	771	1,771 (3)
新潟市	72,619	5,412 (7)	5,412	-	-	-
聖籠町	3,758	205 (5)	205	-	-	-
計	391,499	240,115 (61)	157,396	80,663	1,595	82,258 (35)

注1：林野庁所管以外の国有林は除く。

(R5 年度末調べ)

注2：四捨五入のため合計数値が合わない場合がある。



国有林は、森林計画に基づいて管理経営しており、当署の森林計画区は、下越森林計画区（村上支署管轄分を除く。）と佐渡森林計画区に属しています。

### (1) 下越森林計画区の国有林

日本海型気候区に属し、寒冷で降水量は多く、山間部は豪雪地帯となります。二王子（新発田市）、中ノ沢・新谷（阿賀町）などではスギを主体とする人工林が分布しています。人工林の面積割合は12%となっています。

### (2) 佐渡森林計画区の国有林

佐渡の国有林は、トキの保護増殖を図るために昭和37年から45年にかけて国が買い入れたもので、トキの営巣木を確保するためアカマツなどの保護を行っています。



マツ枯れ対策  
(薬剤の樹幹注入)

## 2 林業の成長産業化への貢献

### (1) 計画的な森林整備の推進

国有林野における人工林では、主伐・再造林による年齢構成の平準化、保育間伐などの森林整備を適切に実施していくことが必要であり、この取組により地球温暖化防止のための森林吸収源対策にも寄与しています。

また、針葉樹と広葉樹が混在したり、林齢、樹種が異なる林分がモザイク状に配置された多様な森林への誘導にも取り組んでいます。

森林の木を伐採するとき、一度に全部伐らずに必要な分だけ抜き伐りし、その後若い木を育て、年齢の違う木で構成される複層状態の森林をつくることを複層林施業といい、多様な森林へ誘導する一つの手法です。



複層林施業による多様な森林への誘導

### (2) 林業の低コスト化・省力化

戦後造成された人工林が本格的な利用期を迎えている中、豊富な森林資源を循環利用し、「林業の成長産業化」を実現することが課題となっています。将来にわたり、木材を安定的に供給し、持続可能な森林経営を確保していくためには、民有林・国有林がともに「森林整備の低コスト化」を進めていく必要があります。

① 植栽や下刈コストの削減等

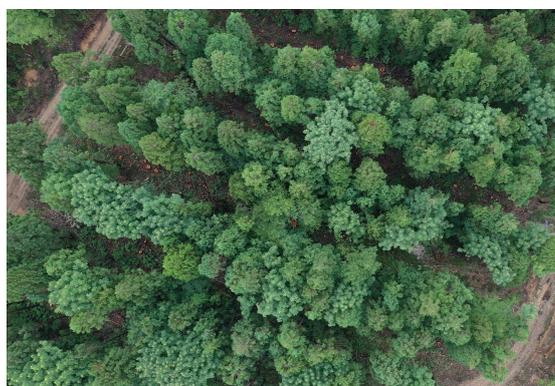
再造林の低コスト化に向け植栽本 2,000 本/ha を標準として、苗木は植栽効率が良いコンテナ苗を採用しています。また、花粉の発生源となっているスギ人工林の伐採と、花粉の少ない苗木への植替えを推進します。

下刈回数については、植栽した年から5年間毎年実施していたものを、苗木の成長状況に応じて下刈を不実施とし、保育コストの削減を図ります。



② 列状間伐の推進

列状間伐と効率的な路網整備、高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムを推進しています。列状間伐は、選木が機械的で容易、かかり木発生が少なく安全性が高く、集材時に残存木への損傷が少ない、伐採列は、次回間伐の搬出路として活用できるなどのメリットがあります。



列状間伐

③ 一貫作業システムの導入

収支の改善を図る新しい林業の取組として、素材生産と造林事業の一貫作業契約を導入しています。

車両系林業機械を活用して、伐採・搬出～地拵～植付を連続して行い、造林作業の効率化とコストの低減を図っています。

林業機械の流用



機械地拵



造材・集材

④ 路網の整備（低コスト路網整備の取組）

森林の適切な整備や保全、林産物の供給等を効率的に行うため、投資効果等にも十分配慮しながら、林道、林業専用道及び森林作業道を適切に組み合わせた路網整備を進めています。地形に沿った線形とすることにより土工量や構造物の設置数を必要最小限に抑え、コストの削減に努めます。



林業専用道（手前）と森林作業道

### (3) 森林整備推進協定の締結

森林施業の集約化を進めるためには、隣接する民有林と国有林が協定に基づいて共同で路網整備や間伐等を行う「森林共同施業団地」の設定が効果的です。

今後も会議等の場を活用しつつ、計画的・効果的な森林整備が見込める地域での共同施業団地の設定と、森林整備推進協定の締結に向けて関係者間で調整を進めます。

### (4) 国有林材の安定供給販売システム

当署では、国産材の付加価値向上や需要の拡大、加工・流通の合理化等に取り組む製材工場等と協定を締結し、国有林材を安定的に供給する「国有林材の安定供給システム販売」を実施しています。今後は、民有林と連携した協定取引を推進することで、より安定的な原木供給を目指します。

## 3 民国連携の推進

### (1) 新潟大学農学部との連携

当署が管理経営する広大かつ多様な国有林を、新潟大学の教育や研究に活用してもらい、大学側からは、様々な課題に対して学術的助言などをもらう目的で、平成27年3月に新潟大学農学部との間で「連携協力協定」を締結しています。例年、学生の間伐調査実習にも国有林を活用されています。



間伐調査実習

### (2) 新潟県森林研究所との連携

平成28年度から、新潟県森林研究所が行うスギ林を対象とした将来収穫予測技術開発等のため、申合せ事項を定め、当署と村上支署が管轄する国有林の一部を研究等のフィールドとして提供しています。また、令和4年度から、スギの組織培養苗（無花粉苗2種類）、実生苗を植栽し、植栽後の枯死率や成長量を調査するため、覚書を締結し、当署が管轄する国有林の一部を研究フィールドとして提供しています。



### (3) 林木育種センターとの連携

成長が早く、木材強度はスギ同等といわれ、既に西日本等で植栽試験が実施されている「コウヨウザン」を管内に植栽し、森林総合研究所林木育種センターと共同で、積雪条件下での本樹種の生育等についての調査を実施しています。



コウヨウザン

#### (4) 地域の林業に貢献する取組等の公表

森林・林業の再生、林業の成長産業化に貢献するため、民有林と国有林が連携した森林整備の実施、地方公共団体の林務担当職員への技術支援、森林・林業技術者の育成、林業の低コスト化・省力化と民有林への普及・定着等に取り組み、その成果を下越署ホームページに公表する予定です。



R6年度 OWL 活用の検討会

#### 4 治山事業の推進

治山事業は、山地に起因する災害から国民の生命・財産を保全し、水源のかん養、生活環境の保全・形成等を図る極めて重要な国土保全施策の一つであり、安全で安心できる豊かな暮らしの実現を図る上で必要不可欠の事業です。

当署では、自然災害により荒廃した溪流や山地を復旧するための治山工事、突発的な豪雨により溪流や山腹斜面から災害が発生した際に、下流域に流出する土石、流木等の被害を軽減するための予防治山工事を実施しています。また、木材の有効利用のために間伐材等を型枠材に使用した治山施設の設置も行っています。

令和7年度は、溪間工：コンクリート谷止工（2基）、保安林整備：本数調整伐（17.13ha）を実施します。



山腹工（R5年度施工）



コンクリート谷止工（R6年度竣工）

#### 5 良好な自然環境等の保全

##### (1) 自然公園

管内の国有林では、「磐梯朝日国立公園」及び「胎内二王子<sup>たいないにのうし</sup>」、「五頭連峰<sup>ごす</sup>」、「阿賀野川ライン<sup>あかはやて</sup>」、「奥早出栗守門<sup>あわすちん</sup>」、「小佐渡」の各県立自然公園が設定されています。

##### (2) 保護林

原生的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、施業及び管理技術の発展等に資することを目的として、設定しています。

（当署では3種類8箇所が設定されています。）

① 森林生態系保護地域

名称	面積(ha) 場所	概要
飯豊山周辺 <small>いいでさん</small>	15,287 新発田市 胎内市 阿賀町	新潟・山形・福島の3県にまたがる飯豊連峰の中心部にあり、日本海側気候区の豪雪地帯における典型的な山地帯から高山帯までの原生的な天然林を保存。

② 生物群集保護林

名称	面積(ha) 場所	概要
越後山脈	2,009 阿賀町	福島県境の本名御神楽を中心とした山岳地帯で、原生的な天然林と雪崩の侵食による急峻な地形が特徴。



① 飯豊連峰



② 越後山脈森林生物遺伝資源保存林：広谷川上流

③ 希少個体群保護林

名称	面積(ha) 場所	目的
赤谷山スギ 遺伝資源	11 新発田市	日本海側気候における天スギの遺伝資源の保存
目指岳コウヤマキ 遺伝資源	10 阿賀町	日本海側気候における北限のコウヤマキの遺伝資源の保存
大久蔵トチノキ 遺伝資源	9 阿賀町	日本海側気候におけるトチノキの遺伝資源の保存
白山ケヤキ 遺伝資源	7 五泉市	日本海側気候におけるケヤキの遺伝資源の保存
猿ヶ城岩 オオフジシダ	8 新発田市	オオフジシダをはじめとする希少な暖地性のシダの分布地(北限)の保護
俎倉山スギ	144 新発田市	天スギ(赤谷スギ)の保護



赤谷山スギ遺伝資源



猿ヶ城岩オオフジシダ

#### ④ 緑の回廊

森林生態系の構成者である野生生物の多様性の保全には、その移動経路を確保し、生育・生息地の拡大と相互交流を促すことが必要とされていることから、原始的な天然林や貴重な野生生物の生育・生息地等を保全するため、保護林を中心にネットワークを形成する「緑の回廊」を設定しています。

名称	面積(ha) 場所	目的
越後線	3,476 (延長：20.5km) 阿賀町	利根川源流部・燧ヶ岳（ひうちがたけ）周辺森林生態系保護地域と越後山脈森林生物遺伝資源保存林を結ぶ越後山脈沿いの天然生林の多い地域を設定。 より広範囲な森林の連続性の確保と生物多様性の維持・向上。

## 6 レクリエーションの森

レクリエーションの森は、それぞれの森林の特徴や利用の目的に応じて、自然休養林、自然観察教育林、風景林、森林スポーツ林、野外スポーツ地域、風致探勝林の6種類に区分されています。当署にはこのうち2種類3箇所が設定されています。

### (1) 自然休養林

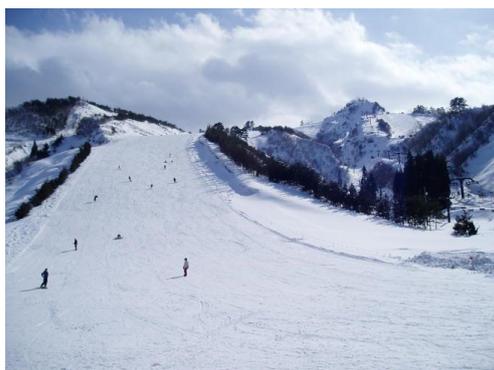
名称	面積(ha) 場所	概要
こま 五頭	1,850 阿賀野市	五頭連峰の菱ヶ岳、五頭山、松平山に至る稜線を挟んだ両側に位置し、山腹から稜線付近はブナ、ミズナラ等の原始的な天然生林、中腹以下はナラ類等の広葉樹二次林が多く、優れた景観を呈しており、登山や自然観察等に利用。



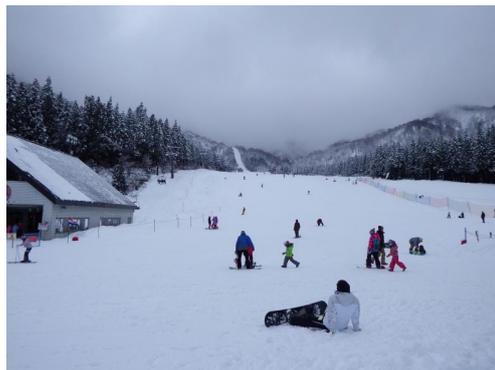
五頭山山開き

## (2) 野外スポーツ地域

名称	面積(ha) 場所	概要
胎内 スポーツ林	189 胎内市	胎内市東部に位置し、12月から3月末までは安定した積雪があり、起伏に富んだ地形はスキー場に適しており、隣接する民営スキー場との一体利用が可能。
ニノックス スキー場	326 新発田市	新発田市東方の二王子岳山腹に位置し、高速道路が近いなど交通の便が良く、積雪量、雪質ともに恵まれ、起伏に富んだ地形はスキー場に最適。



胎内スキー場



ニノックススキー場

## 7 国民参加の森林づくり<sup>もり</sup>

国民参加の森林づくりは、協定締結により活動の実施主体が国有林野内で多様な森林整備や保全活動を実施しています。森林づくり活動の目的に応じて、ふれあいの森、社会貢献の森、木の文化を支える森、遊々の森、多様な活動の森、モデルプロジェクトの森の6つのメニューがあります。当署にはこのうち3種類5箇所が設定されています。

### (1) 木の文化を支える森

歴史的木造建造物や伝統工芸などの「木の文化」を後世に継承していくためには、必要な木材や樹皮などの資材を供給する森林が不可欠です。「木の文化を支える森」は、こうした森林を守り育てる活動に共感し、参加したいという方々の声に応え、国民参加の森林づくりを進めるため、活動のフィールドとして国有林野を一定期間活用していただく制度です。

名称	面積(ha) 場所	目的
<sup>おんてこ</sup> 鬼太鼓の森	7 佐渡市	佐渡島の郷土伝統芸能である <sup>おんてこ</sup> 鬼太鼓を未来に渡って継承するため、太鼓の材料であるケヤキ大径材などを供給することとし、平成19年に地元の「鬼太鼓の森づくり」協議会と協定を結んで設定された木の文化を支える森。協議会がボランティア等に呼び掛け、毎年度、保育・保護活動を実施。



「鬼太鼓の森」の様子



木製歩道



整備活動

## (2) ふれあいの森

森林づくり活動に参加したい、直接森林と触れ合いたいという方々のために、ボランティア団体などと森林管理署長が協定を結び、森林づくり活動や森林と親しむ活動などのフィールドとして国有林を提供する制度です。

名称	面積(ha) 場所	概要
とろだいら 椽平 さくら の里	73 新発田市	大峰山の桜の景観を鑑賞できるように、史跡名勝天然記念物である「椽平 桜樹林」に隣接する国有林に「ふれあいの森」を設定。NPO「加治川さくらの里づくりの会」が保護活動を実施。
五頭みんな の森	9 阿賀野市	五頭スキー場の跡地を緑化するため「ふれあいの森」を設定。一般市民団体「ブナ友の会」及びボランティアが緑化活動を実施。
中ノ沢溪谷 ・天然スギ の森	22 阿賀町	五頭連峰の東側、裏五頭山系には「ムラスギ」と呼ばれる天然スギが多く分布しており、阿賀町が整備した中ノ沢溪谷森林公園や隣接する民有林「天然スギ巨木の森」とともに、森林公園に隣接する国有林にも天然スギが多いことから「ふれあいの森」を設定。 NPO 法人「お山の森の木の学校」及びボランティアが、天然スギを保全するための森林整備、天然スギの保全活動、観察道等を整備し裏五頭の自然に親しめる森づくりを実施。



とろだいら  
椽平さくらの里整備活動

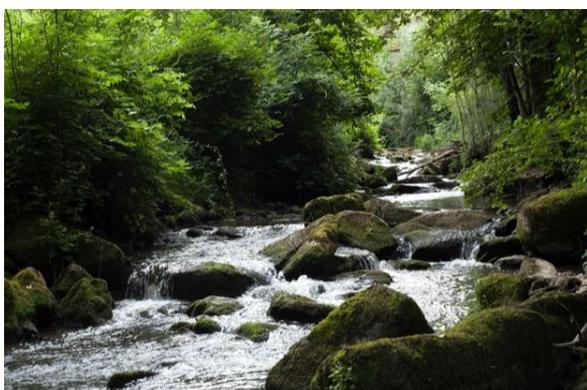


五頭みんなの森緑化活動

### (3) 多様な活動の森

植栽や下草刈りなどの森林整備は行わず、森林パトロール、歩道の草刈り、美化活動などの森林の保全活動を行いたいという要請に応えるため、民間団体などと協定を結び、森林保全活動を行う場としてフィールドを提供する制度です。

名称	面積(ha) 場所	目的
菅名岳 郷土の森	214 五泉市	五泉市の東部にそびえる菅名岳の、ブナ等原生的な天然生林を自然のまま活かしていくことで、豊かな自然を身近に感じ、守り育てていく意識を醸成するため、「多様な活動の森」を令和4年度に設定。 五泉市が美化活動としての登山道や周辺の整備、小中学生を対象とした湧水授業等を実施。



自然豊かな溪相



自然観察会の様子

## 8 森林教室・野外活動

地域や学校などからの要望により、林業体験や子どものためのイベントへ参加しています。林業体験では、除伐作業として立木をノコギリで伐採してもらうなど、普段の生活では体験できない仕事を体験してもらっています。また、子どもや家族連れを対象としたイベントでは、木の枝、木の実を使った木工品づくりや、落葉などで装飾したしおりづくりなどを提供しています。このような取組を通じて、森林・林業に興味をもってもらえるよう継続していきます。



林業体験（除伐作業の様子）



木工品づくり

## 9 野生鳥獣被害対策

### (1) ニホンシカ対策

全国的にニホンシカ（以下「シカ」という。）等の生息域が拡大し、食害等が深刻化しています。新潟県内では、明治時代に狩猟圧により姿を消して以来、シカの生育は確認されていませんでしたが、シカの目撃情報を受けて、平成28年度から阿賀野川流域地域、平成30年度からは村杉地域を加えて、センサーカメラによる生息状況調査を実施しています。年々撮影回数が増加しており、親子連れで撮影される頻度も多くなってきています。今後、森林への被害が懸念されることから、令和5年度に、シカ被害に対する捕獲協力に関する協定について、新潟県猟友会北蒲原支部と締結したところです。

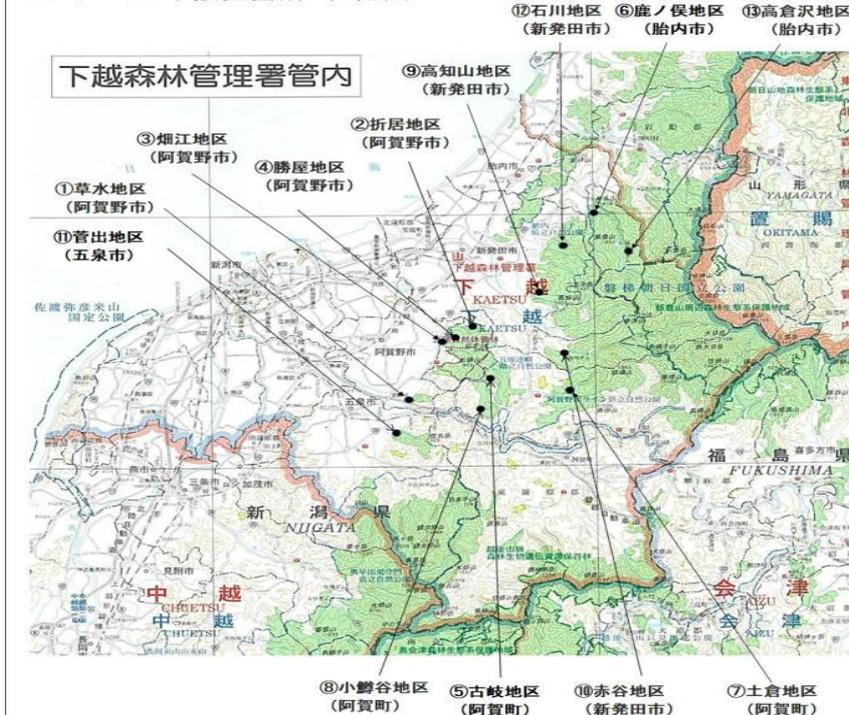


子供2頭（令和6年7月：五泉市）



オス（令和6年10月：胎内市）

センサーカメラ設置箇所 位置図



センサーカメラ

### (2) ツキノワグマ対策

スギ人工林においてツキノワグマによる剥皮被害が確認されていることから、対策を実施しています。クマ剥ぎ被害やクマの目撃情報、生息痕等についても現場と署が連携して情報の共有を図っています。

また、獣害を受けにくいとされ、スギとは伐採周期が異なるヒノキアスナロをスギ林に樹下植栽し、垂直異種の2段林へと誘導する試験を実施しています。



剥皮防止対策



スギ立木のクマ剥ぎ被害



撮影されたクマ



ヒノキアスナロ植栽試験地



ヒノキアスナロ（6年生）

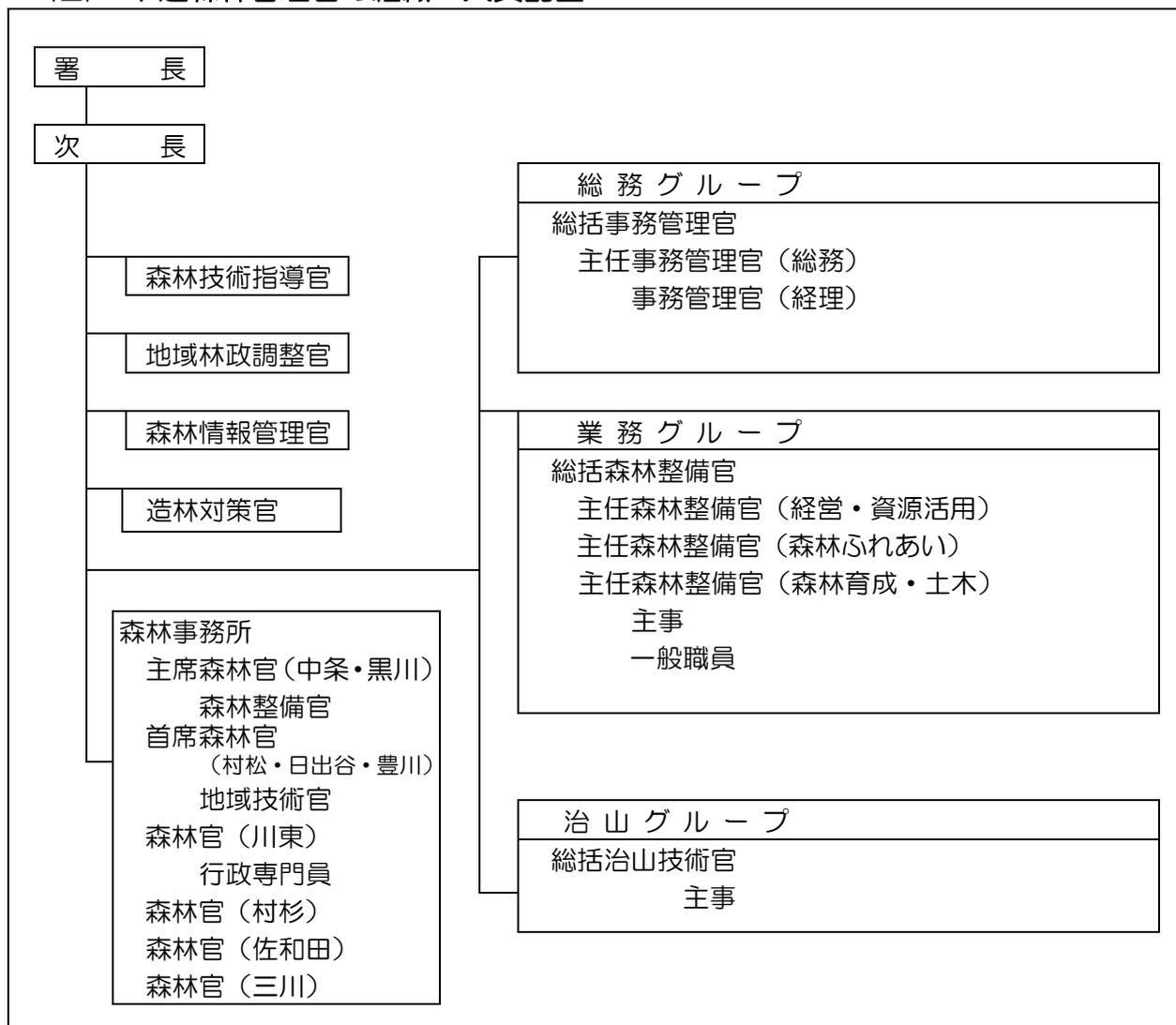
## 10 参考

### (1) 令和7年度の主な事業量

収穫量			225百 $\text{m}^3$
素材生産量			42百 $\text{m}^3$
販売量	立木販売		157百 $\text{m}^3$
	素材販売	公売（委託販売を含む）	1百 $\text{m}^3$
		システム販売	41百 $\text{m}^3$
植栽			5ha
下刈			13ha
つる切・除伐			3ha
保育間伐（本数調整伐含む）			17ha
林道事業			4箇所（災害復旧2、橋梁塗装剥ぎ2）
治山事業			2箇所（溪間工2基、保安林整備1箇所）

※収穫量には臨時伐採量は含まない。

(2) 下越森林管理署の組織・人員配置



下越森林管理署 〒957-0052 新潟県新発田市大手町4丁目4-15

TEL : 0254-22-4146

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kaetu/index.html>